

リグニン構造の最大限活用を伴う
創薬資源化を目指して

2025年7月16日(水) 12:30~13:20

オンライン
(zoom)開催

ご登録はこちら

参加費
無料Associated
Mission

- ・Mission2
太陽エネルギー変換・高度利用
- ・Mission5
高品位生存圏

Keyword

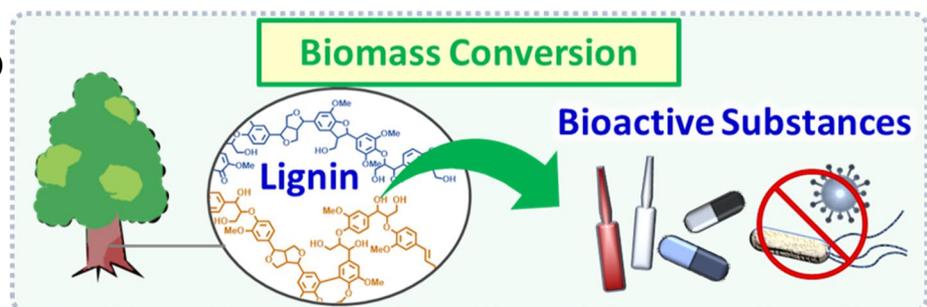
- ◇ バイオマス
- ◇ リグニン
- ◇ 生理活性物質



岡部 由美

生存圏研究所
ミッション専攻研究員

バイオマスの産業利用を目指すスキームであるバイオリファイナリーにおいては、高付加価値なアプリケーション開発が望まれています。そのため、植物細胞壁成分の一つであるリグニン(芳香族ポリマー)が、創薬の材料として注目されています。一方で、リグニンの複雑な構造は、リグニン由来画分・化合物の高選択的創出および構造解析を困難にするため、構造情報と作用機序の解明が必須となる研究において、大きな課題となっています。本発表では、①木質バイオマスからの生理活性物質創出を目指したこれまでの研究成果、および、②リグニンが持つ固有の構造を最大限活用し、「リグニンだからこそ」という新価値創出を目指す現在進行中のアプローチについて紹介します。



定例オープンセミナーは、生存圏の様々な研究を相互に理解すべく、ランチタイムに気軽に行っている講演会です。*不定期水曜日開催

https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/open_seminar_2022/お問い合わせ 京都大学生存圏研究所定例オープンセミナー事務局
TEL : (0774)38-4609